群教セ	G02 － 02
	平28.261集
	社会－小

社会的事象と自分たちの生活との関わりを考え、表現できる児童の育成

――座標軸シートを用いた比較・関連付けを通して――

特別研修員　千葉　和秀

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

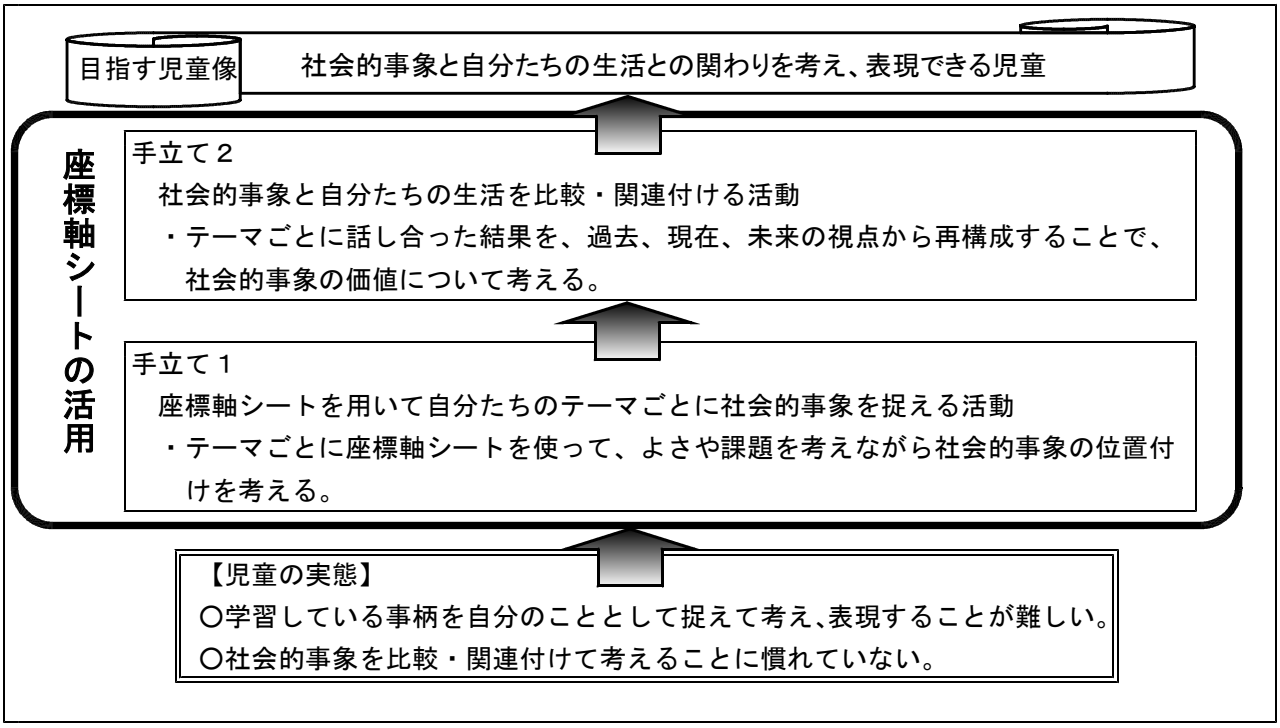
小学校学習指導要領解説社会編では、第３学年及び第４学年の能力に関する目標の中で「地域における社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力，調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。」を挙げている。また、はばたく群馬の指導プランでは、同学年の伸ばしたい資質・能力として「人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解することができる」を挙げている。これらのことから、社会的事象の意味や人々の工夫や努力を考え、表現することを通して、地域のまちづくりについて理解できるようになることが求められている。

本学級の児童は、意欲的に施設を見学したり、社会的事象について調査したりすることができる。しかし、社会的事象と自分たちの生活との関わりを考え、調べたことの根拠を明確にして述べたり、資料を活用して自分のこととして表現したりすることはできていない。このような姿が見られるのは、集めた情報を整理し、自分のこととして考えさせるための活動の工夫が不十分であったためと考えられる。社会的な事象の意味を考え、自分たちの生活との関わりを表現するためには、話合いのポイントを絞り込んだり、様々な場面や立場から考えたりする活動を取り入れながら話し合うといった学習活動の改善が必要である。

そこで、よさや課題を比較して捉えやすい座標軸シートを用いて、調べたことを整理する活動、キーワードを使って説明する活動を行うことにより、社会的事象の意味を考え、自分との関わりを表現することができるであろうと考え、上記のテーマを設定した。

Ⅱ　研究内容

１　研究構想図



２　授業改善に向けた手立て

見学や調査をしたり、資料を調べたりして分かったことを根拠に、課題に対して考えたことを自分の言葉や図などにまとめて表現していく。単元を貫く課題に対し、班ごとにテーマを決め、座標軸シートを使って社会的事象を捉える活動を取り入れることを試みた。また、捉えたことを自分の言葉や図などで表現していくに当たり、座標軸シートを根拠に事実や考えたことを他グループに伝え、座標軸上で比較・整理していくことで、自分たちの生活と相互に関連付けることを手立てとした。

手立て１
　座標軸シートを用いて自分たちのテーマごとに社会的事象を捉える活動
　テーマごとに座標軸シートを使って、よさや課題を考えながら社会的事象の位置付けを考える。
手立て２
　社会的事象と自分たちの生活を比較・関連付ける活動
　テーマごとに話し合った結果を、過去、現在、未来の視点から再構成することで、社会的事象の価値について考える。

手立て１では、単元を貫く課題に関わる社会的事象を取り上げ、課題解決に向けた複数のテーマを設定した。さらに、テーマに合わせて縦軸と横軸に据える視点を児童に考えさせることで、身近な言葉で社会的事象を位置付けやすいように工夫した。課題解決に向けて必要となる複数のテーマを各班で一つずつ担当させた。座標軸上でキーワードを記したマグネットシートを動かし、社会的事象の位置付けを考えながら意見交換することで、社会的事象の様々な関連を捉えることができた。

手立て２では、さらに、同じテーマで他の班が考えた結果と自分たちの話し合った結果を関連付けさせた。また、今まで考えてきたテーマやキーワードを捉え直すために、新たな視点で児童の思考を促す資料を提示し、再構成させた。学習課題を自分たちの生活との関わりと結び付けるために、座標軸シートを用いて、過去、現在、未来の視点から社会的事象と自分たちの生活との関わりを考えさせた。過去や現在の社会的事象の意味から一歩進めて未来を予想してみることで、社会的事象と自分たちの生活との関わりを自分のこととして表現することができた。

Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

○　座標軸シートを用いて自分たちのテーマごとに社会的事象を捉える活動を通して、複数のテーマから考えることに慣れてきた。縦軸と横軸にどのような視点を据えるかをみんなで考えることで、物事を多面的・多角的に見ようと意識させることができた。

○　社会的事象と自分たちの生活を相互に関連付ける活動を通して、学んだことを過去、現在、未来の視点から社会的事象の意味を再構成することができた。さらに、社会的事象の意味を考えるだけでなく、児童の生活に関連付け、自分のこととして考え、生活との関わりを表現できるようになってきた。

○　座標軸シートは、見学に行く前の見学のポイントを考える段階やまとめたことを整理する段階でも思考の視覚化に役立った。

２　課題

○　座標軸シートを用いるには、どんなことを児童から意見として引き出したいかをよく吟味し、児童の思考の流れを予想した上で軸を設定する必要がある。

○　児童に軸の意味やキーワードのイメージが共有化されていないと位置付けの作業に混乱が生じるので、言葉の明確化が必要である。

実践例

１　単元名「水はどこから」（第４学年・２学期）

２　本単元について

本単元は、学習指導要領第３学年及び４学年の内容の（3）ア「飲料水，電気，ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」イ「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」に基づいて設定している。飲料水にかかわる対策や事業を取り上げ、安全な水を安定的に供給されるしくみを調べ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解させるとともに、持続可能な社会に向けて自分たちができることを考えさせることを通して、地域社会の一員としての自覚を持たせたいと考えている。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	飲料水を確保する対策や事業は、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解して、これらの諸活動に関心を持ち、それを意欲的に調べ、地域社会の一員としてよりよい生活環境を考えようとする。	
評価規準	関心・意欲・態度	飲料水を確保する対策や事業に関心を持ち、見学、調査や資料の活用を通して意欲的に調べるとともに、節水など水資源を守るための自分たちの取組に学習したことを生かそうとしている。
	思考・判断・表現	飲料水の確保に関わる対策や事業について、学習問題や予想、学習計画を考える。飲料水の確保が組織的・計画的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上が図られていることを考えたり、水の有効利用や節水のために自分にできることを判断したりして、それらを適切に表現している。
	観察・資料活用の技能	飲料水の確保に関わる施設や設備を調査・見学したり、地図や統計などの資料を活用したりして必要な情報を集め、飲料水の確保のしくみや働きを読み取り、作品にまとめている。
	知識・理解	飲料水は自分たちの生活や産業を支える大切な資源であり、これを確保するための対策や事業が計画的・協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第１時 ～第３時	・生活のどんな場面で水を使っているかを振り返り、使っている場面の様子を絵や文に表す。 ・学校内にある蛇口の場所や数を調べて、学校でも安全な飲料水を確保するための取組をしなかったら自分たちのくらしはどうなるかを考える。 ・簡易ろ過装置を作り、水がどのようにきれいになるのか体験をする。
課題追究	第４時	・身の回りにある水について、安全、いつでも飲める、安い飲み水といった視点で、座標軸シートを用いて班別に協議する。
	第５時	・浄水場ではどのように水をきれいにしているのか、どのように家庭へ送るのかなど予想しながら質問事項を考える。
	第6時～第8時	・浄水場を見学して、水がどのようにしてきれいで安全な飲料水になるのかを調べる。
	第９時	・渡良瀬川の水はどこからやってくるのか、副読本を基に調べ、気付いたことを発表する。
	第10時	・地図帳やパンフレットなどの資料を用いてダムの上流にある水源林の様子や働きを調べ、分かったことを発表する。
	第11時	・自分たちの住んでいる市町村で使われる水の量が、あまり増えていない理由を考える。
まとめ	第12時	・水を大切にするために自分にできることをグループで紹介しながら意見交換する。
	第13時	・課題に対する答えやこの学習で学んだことをステッカーにまとめる。

３　本時及び具体化した手立てについて

本時は全13時間計画の第４時に当たる。導入で日常生活で水を使う場面や学校の蛇口調べをすることで、多くの場面で水を使っていることを確認した。また、汚れた水をきれいにするろ過装置作りを通して、

きれいな水を作るためには、様々な努力や工夫が必要であることも体験させた。本時のめあてには、「わたしたちの生活には、どのような水が必要なのだろうか」を設定した。

手立て１
　グループごとに「安全で衛生的な水」「いつでも飲める水」「安い水」という三つのテーマから一つを選んで、座標軸シートを使って飲み水としての水について考える。
手立て２
　テーマごとに話し合った飲み水を生活用水の一部であると捉え直し、過去、現在、未来の視点で再構成することによって、未来の水道水の大切さや在り方について考える。

４　授業の実際

まず、飲み水を手にする方法を考えさせた。そして、飲み水に求められる条件を挙げさせ、「安全」「いつでも」「安い」といった三つのテーマに集約し、座標軸シートを用いてグループで協議した（図1）。

図１　児童が考える飲み水

(1)　身の回りにある水が安全でいつでも飲める安い飲み水になり得るのかについてグループで協議し、座標軸シート上のどの辺りに位置付くか考える活動

横軸には共通して「誰でも得られる」⇔「得られない」という軸を、縦軸には班ごとに「安全」⇔「安全ではない」、「いつでも」⇔「いつもではない」、「安い」⇔「高い」といったテーマを座標軸に設定した。

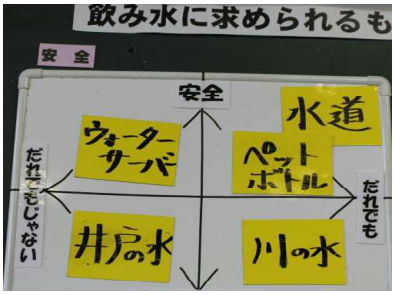


図２「安全」な飲み水

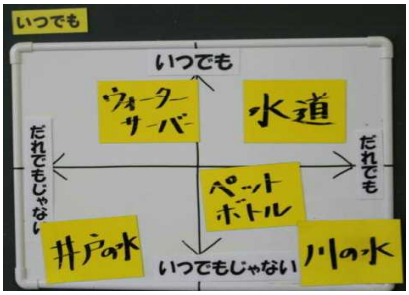


図３「いつでも」飲める水

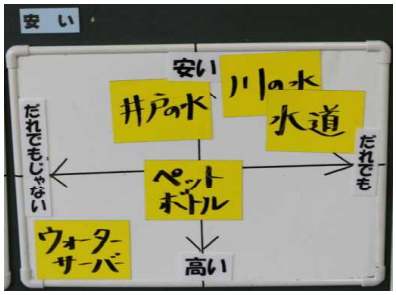


図４「安い」飲み水

川の水、井戸の水、水道水など飲み水となるものを書いたマグネットシートを座標軸上で動かしながら、意見を発表していた。それぞれの飲み水の特徴を比較・関連付けながら、グループで出た意見を発表した（図２、３、４）。

図２のグループは、人の手で一度処理された製品としての水を安全な飲み水と考えた。図３のグループは、家の中にある水を思い浮かべ、水道水がいつでも飲める水であると考えた。図４のグループは、購入にかかる費用を比較し水道水が安いと判断した。

それぞれの飲み水には、長所と短所があることが分かり、異なるテーマで考えた他のグループのシートとも関連付けて考えた。すると、水道の水が、安全に飲める水、いつでも飲める水といったどのテーマでも右上に位置付き、誰でも「安全」「いつでも」「安く」手に入る飲み水であることが分かった。

座標軸シートを使うことで、思考が視覚化され、児童から図５のような発言を引き出すことができた。

児童の発言
・水道の水は、安全でいつでもすぐ飲めて安いんだね。
・ウォーターサーバーやペットボトルの水は手に入れやすくなったけど、値段が高いね。

図５　比較して気付いたこと

(2)　テーマごとに話し合った結果を生活用水という視点から再構成することで、水道水の大切さについて考える

飲み水としての水から家庭生活に使われる水として視点を広げて考えさせるために、グラフ「家庭での水の使われ方」を提示した（図６）。飲み水は、その他８％に当たり、生活の中のほんの一部であることが分かった。

飲み水として考えてきた水を様々な用途に使われる水として捉え直すために再度、座標軸シートで考えた。横軸には「今」を中心に据え、「昔」⇔「１０年後」という軸を、縦軸には、「みんなで利用」⇔「個人的に利用」という軸を設定した(図７)。

視点を変え、様々な水を家庭生活で使われる水全体として位置付けることで、水道水が昔から今まで使われている理由、県や市町村の事業として行わねばならないことを考えられた。飲み水として求められることの他にも、生活には、大量の水が使われていることが分かった（図７右のキーワード)。今後10年後にも使い続ける水について予想することができた。

また、「10年後、大人になっても使い続けるためにはどのような水が必要なのだろうか」といった発問を行ったことで、授業前には考えていなかった「大量に必要な水」という視点や「備蓄や非常時にも必要な水を作る水道事業の大切さ」についても意見にまとめられた（図８)。そして、ワークシートには、図９のような記述が見られた。

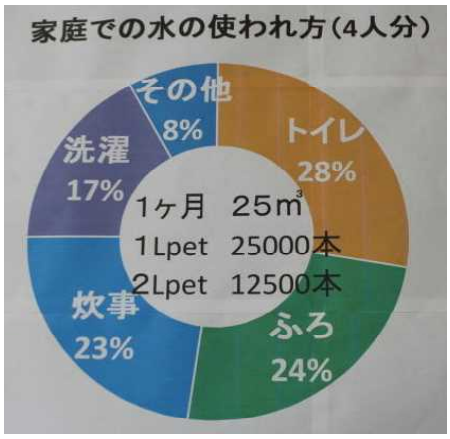


図６　生活に使われる水の割合

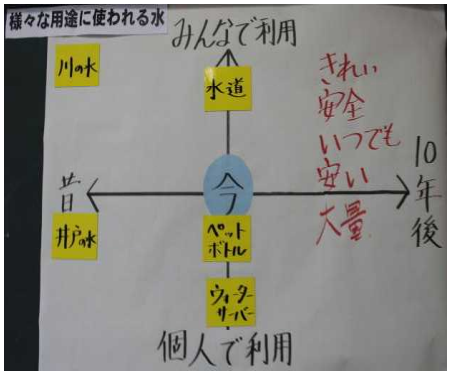


図７　再構成した座標軸

５　考察

座標軸シートを用いてきたことで、複数の視点から社会的事象が、どのような位置付けになるかを考えながら話し合うことができた。グループごとに一つずつの視点を与え、複数のテーマで捉えたことを比較・関連付けることで、社会的事象を多面的・多角的に考えることができた。

社会事象と自分たちの生活を相互に関連付ける活動を通して、水は飲み水だけでなく幅広く生活に使われていることに気付かせることで社会的事象を再構成し、自分たちの生活と関連付けることができた。水に必要なことは、「きれい」「おいしい」という視点であったものが、安全面だけでなく、値段や安定供給といったことにまで気付けた。

本時は見学に行く前の導入の段階として設定した。軸の設定を予想し、座標軸シートを用いるのに必要なテーマや観点を考えることで、授業展開を構想したことは授業づくりに役立った。事前にどんな視点を設定し、どんなことを児童から意見として引き出したいのか授業展開を予想し、よく吟味した上で軸を設定したが軸の意味やキーワードのイメージが理解され共有化されていないと位置付けるための判断がしづらくなることが分かった。

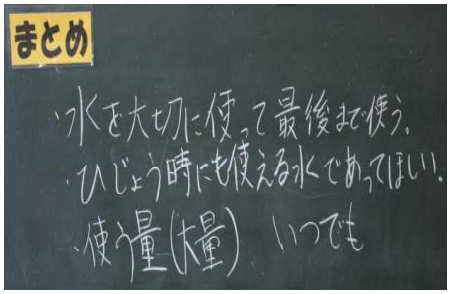


図８　まとめの板書

児童のまとめ（一部抜粋）
10年後の水は、人々が健康で安全できけんなものが入っていない水を人々が受け取って、「おいしい」と言ってくれるような水を作ってもらいたい。生活にはたくさんの水が使われるので、私たちは水を大切に、最後まで使える水であってほしい。

図９　10年後に求める水

まとめを行うための軸の設定に難しさがあった。座標軸シートを用いるのに適したテーマや場面があることに気付くことができた。調べたことや見学したことをその都度テーマを絞って効果的に扱い、それらを対比したり、社会的事象の意味として関連付けたりできるように軸の与え方を改善したい。